海外拠点の活動

国際交流基金は21カ国に23の拠点を設けており、
それぞれの拠点はその国・地域の状況に合わせ、文化芸術から日本語教育、
日本研究や知的交流の各分野でさまざまな交流活動を展開しています。

「TWIST & SHOUT」展（バンコク日本文化センターの項参照）より

アジア・大洋州 | ソウル日本文化センター

文化交流を通じて日韓コラボレーションの強化と共通課題に取り組む

春川ジャパンウィークでの上妻宏光・PURI共演コンサート

11月にソウル市内の学生街に移転したセンターでは、「日韓文化交流5カ年計画」に基づき、日韓コラボレーションと日韓共通課題の解決を中心テーマに、多彩なプログラムを実施しました。

■第15回ソウル国際ブックフェアに出版文化国際交流会と共同出展。「日本年」の2009年は、日本の13団体が参加し約3,300点の日本書籍を展示。また、春川市で開催されたジャパンウィークでは、浮世絵展や津軽三味線奏者上妻宏光氏と韓国の国楽グループの共演コンサートを実施しました。

■中等教育日本語教師を対象とする、5日間30時間の集中研修プログラムを、夏・冬休み期間中に実施。また9月には日系企業の協賛で全国の中高校生による「第2回全国学生日本語演劇発表大会」を開催。64校が参加し、優勝・準優勝校には外務省の招へいプログラムによる日本研修旅行が提供されました。

■1月に開催した韓国のNGO希望製作所との共催によるシンポジウム・専門家会議「社会的企業の自立は可能なのか」には、日韓の専門家・実務家など200人を超える聴衆が参加しました。

アジア・大洋州 | 北京日本文化センター

若者に絶大な人気の日本のポップカルチャーの「いま」を紹介

「J-pop in China 2009」でのFunky Monkey Babysのライブ

中国の若者に人気の高い日本のポップカルチャーを紹介するイベントに力を入れ、注目を集めました。

■11月の「J-pop in China 2009」では、日本のアーティストFunky Monkey Babysと加藤和樹氏によるライブと日中カラオケ大会を実施し、約1,700人の観客を集めたほか、2日間にわたって開催した「Anime Festa 2009」では日本のアニメ映画「サマーウォーズ」上映や、声優トークショー、日中合作アニメに関する講演会を実施し、約3,150人が参加して賑わいました。

■要望の多かった日本語能力試験の複数回実施を始めました。出願者数は過去最高の37万4千人を超え、38都市70会場で行われました。また、今年度も高校と大学の日本語教師を対象とした集中研修会を夏期・春期、それぞれ2都市で6日間実施し、300人以上が参加しました。

■作家リービ英雄氏の交流会と講演会を北京と南京で開催。講演会には、学生や研究者など180人が参加しました。

アジア・大洋州 | ジャカルタ日本文化センター

日本への関心をいっそう高める伝統と現代文化の紹介に注力

ICAF2009 選集上映セミナー

2008年の日本インドネシア友好年に続き、2009年10月には「第1回ジャカルタ日本祭り」が開催されました。センターも、日本への関心をいっそう高め、深めるための事業を、多数展開しました。

■日本の舞踊グループ、パパ・タラフマラとインドネシアのアーティストたちとの共同制作「ガリババの不思議な世界」は両国のコラボレーションとして好評を博し、2,100人の観客を得ました。また、ジャカルタ国際映画祭での「インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル(ICAF)2009年選集上映」では日本の学生たちの最新作品の上映とセミナーを行いました。

■第2外国語として日本語を学ぶ高校生の急増を受け、国家教育省と共同で制作し、完成させた高校用教科書「さくら」が7月から全国の学校で使用されはじめました。同時に高校日本語教師の育成を図る専門的な研修や支援も充実させました。

■日本研究の拠点であるインドネシア大学などへの支援のほか、国際シンポジウム「イスラームと近代化」を実施。日本人研究者と東南アジアイスラム知識人とのネットワーク強化を図りました。

アジア・大洋州 | バンコク日本文化センター［東南アジア総局を併設］

日メコン交流年、美術展やダンスなど多彩な事業を開催

「TWIST & SHOUT」展オープニング

2009年は日本とメコン地域諸国との交流年にあたり、タイ国内で多彩な文化行事を開催しました。

■日本の現代美術を紹介する日メコン交流年企画展「TWIST&SHOUT」には3万人以上の観客が訪れ、好評を博しました。日タイ共同制作によるダンス公演「コウカシタ」、衣装ワークショップ・公演「結 yui」のほか、コシノ・ジュンコ・トークショー、UNIT ASIAジャズ公演、女性監督を特集した日本映画祭などを実施しました。

■タイ国内の日本語教育に携わる5機関の共催で、日本語教育のネットワークづくりと地方への教育支援強化のため、高校日本語教師対象の地方研修会を3カ所で実施し、85人が参加しました。

■初の地方開催となった第3回タイ国日本研究ネットワーク年次総会には160人以上の日本研究者が集まり、研究発表が行われました。また、急激な経済発展のもと課題となっている環境保護について、「環境保護と法律～日本の経験に学ぶ」と題したセミナーをタイ国最高行政裁判所と共催。日本から専門家を招へいし、裁判官や検事など433人が集うほどの関心を集めました。

アジア・大洋州 | マニラ日本文化センター

日本の現代文化の多様性を紹介、若者の日本理解を深める

日本語フィエスタにおける「東京／マニラ・ストリートファッション展」

日本文化の理解を端緒に、日本語学習にも興味をもってもらうための「日本語フィエスタ」では、少年ナイフによるコンサート、日本の若者ファッションを紹介する写真展やストリートファッション・コンテストを開催(2月)。すでに人気の高いアニメやマンガにとどまらない多様な日本の現代文化を紹介しました。

■日比友好月間では日本映画祭、現代美術展のほか、日本の若手音楽家を招き「Jクラシック・コンサート」を開催。1,000人近い観客から好評を博しました。また日比ドキュメンタリー映画上映会では両国の社会問題を扱った5作品を上映しました。

■日比双方の産官学の連携で、高校生を対象に出前授業や工場訪問「会社キャラバン」を実施。メトロマニラ首都圏の高校6校の参加者246人に、日本の技術やものづくりの精神を紹介しました。

■紛争地域ミンダナオにおける平和構築を支援する取り組みの一環として、マグバサキタ財団とイスラム民主主義フィリピン・カウンシル主催によるイスラム社会の女性知識人の組織化を目的とした国際会議「平和の灯火、女性たちの誓い」に協力しました。

アジア・大洋州 | クアラルンプール日本文化センター

日本文化の情報センターとしていっそうの発展をめざす

日本研究ネットワーク強化事業による巡回セミナー

センター移転1年目にあたる2009年は、日本文化の情報センターとしていっそうの周知を図るとともに、外部機関との連携や施設の活用に力を入れました。

■日本文化を多角的に紹介する事業のなかでも、恒例の「日本映画祭」は好評で、近年の日本映画8作品の上映で2,745人の観客を集めたほか、「現代日本デザイン100選」展も盛況でした。またマレーシアの学生ダンサーも参加した公演「踊りに行くぜ！！」や、能のレクチャーやワークショップなどを実施しました。さらに、招へい事業により訪日した文化人などに日本体験談を語ってもらう場を設け、成果の還元と知識の共有を図りました。

■日本語教育を行う中等学校は5カ年で85校に倍増し、教育省による日本語教育シラバス改定の2012年導入完了に向けて、改定への協力や教師研修セミナーを行ったほか、日本語研修やコンサルティングなどを通じ、教師の育成と質の向上に努めました。

■北東アジアの経済連携をテーマに日本人専門家を迎えた巡回セミナーに約300人が参加、研究者のネットワーク強化を図りました。

アジア・大洋州 | ニューデリー日本文化センター

日本とインドの文化を融合させた質の高い企画を実施

日印交流・インド舞踊公演

福岡県庁との共催で福岡留学フェアを開催。福岡県の大学と日本語学校が出展したほか物産展も実施され、2日間で200人の来場者を得ました。日本の公共団体やNGOにとっての日印交流の足がかりとなる提携組織として、センターの役割は大きくなっています。

■古事記の木花咲耶姫をモチーフに、インド伝統舞踊のカタックダンス公演を実施。インド人による音楽・振り付けによって日本人舞踊家が踊る、両国の文化が融合した新鮮で質の高い公演となりました。また2月の長谷川哲版画作品展「At Waste」には250人が来場し、展示会場では野々村明子氏のダンス公演も行われました。

■各種日本語教育教材の開発のほか、南アジア日本語スピーチコンテストを助成。第3期JENESYS若手日本語教師派遣プログラムでは5人の日本語教師が各地で10カ月間活動しました。

■第5回日印文学セミナーでは国文学研究資料館から研究者を招き、約80人が参加。国際セミナー「言語教育はことばと文化を結ぶ」や、国際日本文化研究センターとの共催シンポジウム「アジア新時代の南アジアにおける日本像」では幅広い分野の発表が行われました。

アジア・大洋州 | シドニー日本文化センター

新規事業を積極的に展開、幅広い日本文化紹介を実施

Pip&Pop の 作 品「Under the Crystal Sky」（Facetnate! 展）」

広大なオーストラリアで効果的に日本紹介を行うため、ウェブの活用や企業などとの連携による新規事業の企画に力を入れています。映画を素材に日本語と日本文化を学ぶ「J-Cinemaプロジェクト」では、第1弾として製作した「Happy Family Plan」のDVD教材が好評を博し、中等教育推薦教材の指定（NSW州）も受けました。

■第13回日本映画祭を6都市で実施。シドニーとメルボルンでは21作品を上映、1万人以上の観客を動員。また新人アーティスト育成を目的とした公募展「Facetnate!」には30組を超える応募があり、3組を選定し展覧会を開催しました。

■日本語教師向けのオンライン講座は全コースが完成。イギリスからの受講も可能になり、2009年度には72人が受講。また全豪の日本語を学ぶ学生・生徒が製作した日本語のビデオ作品を募集するコンテストを開始。95校から応募があり大きな反響を得ました。

■国際交流基金賞受賞者オックスフォード大学アーサー・ストックウィン名誉教授を招き、日本の政権交代とその影響に関する講演会を2都市で開催。約180人が参加し活発な議論が行われました。

アジア・大洋州 | ベトナム日本文化交流センター

若者の国ベトナムで日本語教育から日本文化の紹介まで事業を全面展開

センター内図書室の一角で行われている茶道講習

ベトナムでは、日本語学習者が3カ年で40％以上増加し世界第8位となるなど若い世代を中心に日本への関心は高まっています。センター開設2年目の2009年は、日本語事業の拡大・強化に加え、ハノイ、ホーチミンを中心にベトナム各地で多数の文化交流イベントを実施、また図書室などセンター施設の充実を図りました。

■日本映画祭では「東京タワー」ほか近年の名作6作品を3都市で上映し、1万人以上の観客を動員しました。また、若手・中堅のベトナム人文化人・芸術家11人を日本に招き、原爆跡地訪問や文化人との意見交換を行うなど貴重な体験をしました。

■中等日本語教員への日本語研修・訪日研修のほか、教科書の作成を支援。日本語能力試験の受験者は3都市で1万4千人を超えました。

■ベトナム社会科学院主催の日本研究国際シンポジウムを全面的に支援、参加者はアジア・大洋州からも含め約200人。また沼野充義教授（東京大学）による日本文学の講演会を4都市で実施し、日本研究者・文学研究者が多数参加し熱心な議論が行われました。

米州 | トロント日本文化センター

日本への親近感をベースに、多様な文化事業を展開し情報を発信

社会経済についての講演会

日加修好80周年にあわせ、カナダの諸機関と協力しつつ事業を展開。多様な日本文化の紹介を行い、教育や研究の支援を行いました。またセンター内の事業の活性化を図り、図書館は開館時間を延長し、イベント開催やポップカルチャーコーナーの新設を行った結果、来館者は2007年度の1万9千人から2万6千人へと増加しました。

■カナダの映画祭への支援に加え、10都市で日本映画上映会を実施しました。展覧会では「京都庭園写真展」「佐藤晃一ポスター展」「折り紙建築展」等を開催しました。

■全カナダ日本語弁論大会ではITを利用した中継を行ったほか、各地で日本語教育ワークショップを開催し、インターネットを活用した教師へのアドバイスも行いました。日本語教育機関調査では、2006年時の2万4千人に対して2万7千人あまりまで学習者が増加しました。

■カナダの教育機関の研究者や大学院生が参加する「カナダ日本研究学会」の年次大会を支援したほか、センターでは現代日本政治や社会経済の変化をテーマに講演会を開催しました。

米州　ニューヨーク日本文化センター

主要都市での集中した文化発信で日本に対する理解を深める

現代日本文学セミナーにて松浦理英子氏とのディスカッション

ワシントンやシカゴなどの主要都市を対象に、狂言などの伝統芸能からファッションに至る集中文化発信を行い、日本への理解の深化を図るとともに、2007年に発表された日米交流強化イニシアティブを踏まえた各機関への助成や支援、交流事業を実施しました。

■日本現代文学の紹介事業として、『親指Pの修行時代』の英語版が出版された小説家松浦理英子氏を招き、翻訳者とともにニューヨークとシアトルで朗読会やディスカッションを実施しました。

■日本研究米国諮問委員会の事務局業務を担い、9件の研究機関への支援、31人へのフェローシップのほか、米国アジア学会年次総会をはじめとする国際会議やシンポジウムなどを通して日本研究者のネットワークづくりを支援しました。また、若手・中堅研究者の対日理解と関心を深めるための「日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワーク・プログラム」や、大学院生招へいプログラムを開始しました。さらに、全米の日米協会(JAS)の活動基盤強化とネットワーク形成を支援し、草の根レベルでの対日理解と交流促進に努めています。

米州　ロサンゼルス日本文化センター

多彩な講演とデモンストレーションで日本文化へのより深い理解を促す

隈取の実演　撮影：岡田伸行

「SUSHI」「TERIYAKI」「SAMURAI」などの英単語にとどまらず、より深く日本文化を知り、関心を高めてもらうために、2009年度は専門家を招いた講演を文化事業に多数取り入れました。

■10月にアメリカ西部5都市（ロサンゼルス、サンフランシスコ、シアトル、ポートランド、デンバー）を巡回した「歌舞伎レクチャー・デモンストレーション」事業は、歌舞伎のエッセンスを手軽に理解できる場として好評を博しました（製作：松竹株式会社）。14人の歌舞伎役者をはじめとするスタッフを日本から招き、講演では歌舞伎の歴史や音楽、女形についてなどの解説をはじめとして、役者の化粧から着付けの様子、演奏も行われ、歌舞伎の舞台裏を知ることのできる貴重な機会となりました。また、5都市での公演はすべて満席となり、4,000人の観客を動員しました。

■約6,000人が参加した全米外国語教師協会(ACTFL)の年次総会で開催された「日本横町」（全米日本語教師会主催）に出展。外国語教育の関係者と交流や情報交換を積極的に行い、他言語の支援団体とともに、米国での外国語教育の発展を後押ししました。

米州　メキシコ日本文化センター

日本とメキシコの交流400周年を記念し多くの文化行事でより深い絆づくり

ホセ・マルティ劇場での沖縄音楽公演

春の新型インフルエンザの流行による交流イベントの中止などを乗り越え、日本とメキシコの交流400周年を迎えて、両国の関係をいっそう強化すべく、多くの記念事業を実施しました。

■沖縄出身のミュージシャンを招いた「沖縄音楽公演」では、先島（さきしま）方言の唄も披露され、260人の聴衆で盛況でした。また濱崎道子氏による「書」の講演とデモンストレーション「大字揮毫」をメキシコ市内3カ所で開催、590人が参加しました。

■中南米諸国の教師も含む過去最高の140人が参加したメキシコ日本語教師会主催の「日本語教育シンポジウム」に併せ、「新日本語能力試験説明会」を実施。積極的な情報提供に努めました。また、地方勉強会巡回指導では、教師とアドバイザーを各地に派遣し、地方の日本語教育の水準向上と活性化に貢献しました。

■3月にはメキシコ大学院大学で日系ディアスポラをテーマに交流400周年記念国際シンポジウム「日系ディアスポラのパースペクティヴ：日本、メキシコ、アメリカ」が開催され、2日間で幅広い分野にわたる考察や議論に加え、映画上映や写真展も行われました。

米州　サンパウロ日本文化センター

日本とブラジルの交流の歴史に新たな1ページを

巡回写真展「日本の子ども60年展」

日本人移民100周年を祝った2008年に続き、2009年はブラジルと日本両国の交流の歴史に新たな1ページを刻む年として、多くのイベントを実施しました。ブラジル国内の日系社会と協力した巡回写真展「日本の子ども60年展」は、両国の歴史をあらためて振り返るきっかけとなり、大きな反響を得ました。また、併設図書館では図書館蔵書目録のインターネット公開を開始、外部からの自由な蔵書検索を可能にするなど、ユーザビリティの向上を図りました。

■日本のポップ・カルチャーを紹介する催しも多く実施し、ロリータファッションショーと講演会を各地で開催。レシフェの日本市では2万人の観衆のもとファッションショーを行いました。

■ブラジルおよび近隣国での日本語教師研修、サンパウロ州中等教育の教材開発などに加え、「ブラジル日本語教育環境マップ調査」を各地で実施し、日本語教育状況の把握に努めました。

■仙田満氏（元日本建築学会会長）による「持続可能な建築」「子供の遊び環境」をテーマとする講演会を3都市で開催し、累計で約1,500人の聴衆を集めました。

欧州 ローマ日本文化会館

マンガやアニメ、日本のポップカルチャーを積極的に紹介

琉神コンサート ©Mario Boccia

2009年度は関心が高まっている日本のポップカルチャーをテーマに、幅広い事業を展開しました。若者層に対するアピールになると同時に、他の伝統芸術の紹介などの文化事業にも関心をもってもらうきっかけになりました。

■7月に在イタリア日本大使館やイタリアの機関と協力しポップカルチャーを中心とする日本文化を紹介するイベント「Japanitaly」を開催し、映画上映、日本食・日本酒の提供などを行いました。また漫画家萩尾望都氏講演会や、メディア社会学者マルコ・ペッリッテーリ氏講演会「アニメとマンガの文化政策」など漫画やアニメ文化の紹介が好評を博す一方、ローマ音楽財団との共催による沖縄エイサーチーム「琉神」のコンサートは、ローマ市が各国文化機関と連携した文化紹介計画のオープニングイベントとなりました。

■初級から上級まで幅広い層を対象とした日本語講座は年間のべ受講者が486人でした。また、日本人ボランティアとテーマを決めてフリートークを行う「わいわいしゃべりあーも」は、好評のため月2回の開催となり、参加者は200人となりました。

欧州 ケルン日本文化会館

開館40周年を迎え多彩な記念事業を展開、ドイツ語圏地域にさらなるアピールを

細江英公写真展

40周年記念行事の一環として、記念式典のほか学者・文化人の寄稿による記念誌を発行。ドイツで関心の高い日本の伝統文化に加えて、若者層にアピールするポップカルチャーやJ文学、現代演劇などを積極的に紹介しました。

■基金主催の巡回展「ウィンターガーデン」のプレミア開催をはじめ、ポップな日本映画を集めた「ジャパン・ポップ」特集、日本の現代文学を紹介する講演会の開催など、日本の「いま」を伝える事業を展開したほか、和菓子や華道のワークショップ・講演・デモンストレーションで日本文化を紹介。細江英公写真展は外部団体・企業の協力のもと1,353人の観客を集めました。

■日本語のパイロット講座の内容を全体的に改善したほか、日本語教育の団体と協力してネットワークづくりを強化。ベルリンなど旧東独地域の日本語教師への研修会を実施しました。

■日独共通である高齢化問題をめぐり、高齢者の「生活の質」をテーマとするシンポジウムを開催。また、ハイデルベルク大学の修士課程として日独通訳者養成コースの設置へ協力しました。

欧州 パリ日本文化会館

他機関との連携でより多くの知的交流の機会を創出

日仏知的交流シンポジウム「危機を考える」

学術研究機関や他の日仏交流機関との連携を図り、前年度の倍以上の講演会やシンポジウム等の事業を実施しました。

■日本のジャズを紹介する「ジャズインジャパン」フェスティバルでは、寺井尚子氏ほか日本を代表する女性ミュージシャンのコンサートを実施し、ラジオでも放送されるなど好評を博しました。東京都写真美術館との共催により実施した展覧会「出発（たびだち）6人のアーティストによる旅」は、写真ビエンナーレ「PHOTOQUAI」と提携し、観客は6,621人でした。

■中等教育機関の日本語教師研修会をフランスで初めて実施したほか、アルザス欧州日本学研究所との共催による教師研修は、欧州21カ国約40人による情報共有とネットワーク強化の場となりました。

■国際的な課題に対して日本の知見を生かすための日仏知的交流シンポジウム「危機を考える」には145人が参加し、日本の研究者の発表記事がル・モンド紙に掲載されたほか、279人が来場した「加藤周一 あるいは文化多様性の考察」では、各国から日本研究分野以外の研究者や文化人が参加するなど幅広い反響を呼びました。

欧州 ロンドン日本文化センター

斬新な切り口で日本文化を紹介、関心を高める情報発信をめざす

江戸太神楽の傘回しの曲芸に挑戦

日英外交関係樹立150周年を祝った2008年を終え、2009年度は事業のさらなる展開と地方都市への拡大を強化した結果、3カ年で在外事業件数は約50%増、事業参加者は2倍、メールマガジン購読およびウェブサイトアクセスも30%増を超える成果となりました。今後もアクセスを強化し、ユニークな切り口の日本文化紹介を、ロンドンにとどまらず英国各地へ展開していきます。

■日本の音楽の多様性を紹介するアーティストトークや講演会を5回実施し、320人を超える聴衆を集めたほか、けん玉と江戸太神楽の専門家を日本から招き、5都市で約1,000人の観客を集めました。

■「大学生のための日本語スピーチコンテスト」は初級者のためのグループ・プレゼンテーション部門の新設で、スピーチ部門と併せて185人の応募があり、日頃の学習成果を競う機会となりました。

■国際シンポジウム「Cultural Heritage? in East Asia」を開催、日中韓の文化遺産に関する専門家15人を招き、80人の聴衆とともに議論を行ったほか、アーサー・ストックウィン名誉教授（オックスフォード大学）の国際交流基金賞受賞を記念した講演会を開催しました。

欧州　マドリード日本文化センター

マドリードにセンターを設置、日本とスペインの文化の架け橋に

能に関する講演会（バルセロナ）

マドリード日本文化センターの開設は、マドリード市が進める日本との関係強化プログラム「プラン・ハポン」の一環として誘致を受けて実現しました。市のほかスペイン国内の各文化機関との協力・連携のもと、文化センターの仮事務所を国際交流基金と連携関係にある「カサ・アシア」内に設置。2010年春の開設に向けて準備を進めました。

センターの正式なオープンに向け、開所記念事業となる能楽公演（2010年4月）の準備を進めるいっぽうで、能楽に関する理解を深める目的で、能装束研究家を日本から招いての講演会や展示会、スペイン人の日本研究者による能に関する講演会、また能と関係の深い黒澤明監督作品の上映会などのプレイベントをスペイン各都市で開催しました。

欧州　ブダペスト日本文化センター

日本・ドナウ交流年に豊かな日本の文化を紹介し交流を深める

八王子車人形のワークショップ

日本とハンガリーの国交樹立140周年および国交再開50周年となる2009年には、「日本・ドナウ交流年」として多数の日本文化紹介事業が行われました。また中東欧地域14カ国を管轄する広域事務所として、地域全体への日本文化紹介や日本語事業に継続的に力を入れました。

■「WA：現代日本のデザインと調和の精神」展を国立工芸美術館と共催、日本の優れたプロダクトデザイン160点を展示し、5,000人以上が来場しました。また、交流年のクロージング事業として、人間国宝、鶴賀若狭掾氏と西川流家元、西川古柳氏を招き、新内浄瑠璃と八王子車人形の公演をブダペストの劇場で開催し、2日間の公演で860人の観客を動員しました。

■中東欧諸国11カ国の教師に向けた「中東欧日本語教育研修会」をブダペストで実施、47人が参加し、地域内のネットワーク強化に貢献しました。また、「日本ハンガリー協力フォーラム事業」の一環として、ハンガリー国内の10の日本語教育機関に対する講師雇用の支援を行いました。

欧州　全ロシア国立外国文献図書館　「国際交流基金」文化事業部（モスクワ日本文化センター）

日露文化交流の拠点として活動を拡充

日本文化出前講座「伝統の遊び」

2008年7月の開設後、2009年度には、施設・インフラの整備や事業のいっそうの拡充に努め、9月には公式ウェブサイトも開設しました。ロシア在住の日本専門家・研究者を招き定期的に開催している「日本理解講座」や生け花・書道などの日本文化のデモンストレーションが好評を博しているほか、子どもや若者を対象とした日本文化出前講座や研究発表会も日本文化の理解に寄与しています。

■ロシア初となる文楽公演「曽根崎心中」を「第8回チェーホフ国際演劇祭2009」の招待で上演。8日間で4,800人の観客を動員しました。

■初中等教育機関20カ所に日本語・日本文化教材キット「かばんの中の日本」（2008年製作）を貸し出し、授業等で積極的に利用してもらいました。

■「グローバル化の中でのアジア太平洋地域における日ロ関係の展望」をテーマに、第6回日露フォーラムを開催（ロシア現代発展研究所共催）。両国の有識者・政府関係者約50人が参加しました。

中東　カイロ日本文化センター

エジプトの若者に日本の文化を届け高い関心を呼び起こす

永井豪氏の講演会（芸術アカデミー高等映画学院）

2009年は、エジプトの人口の半数以上を占める若年層に向けて、アクセスしやすい場を活用して日本に対する関心を高め、共感を呼ぶ分野やテーマに焦点をあてた事業を多数計画し、展開しました。

■90年代にアラブで放映され高い人気を集めた日本のロボットアニメ「マジンガーZ」の作者である、漫画家の永井豪氏の講演会は大きな反響を呼びました。また、第2回カイロ・ジャズフェスティバルへTokyo Freedom Soulを招いたほか、日本映画祭では「下妻物語」をはじめとする近年の若い世代による日本映画を上映し、好評を博しました。

■中東地域における日本語教育を拡充・発展させるための基礎インフラの整備として、JF日本語教育スタンダードの紹介や普及に努めたほか、日本語の一般講座の拡充を行い、入門講座の新設など日本語と日本文化を気軽に楽しく学べる機会を増やしています。

■大学への客員教授派遣や、日本研究入門集中講座に対する支援を行ったほか、中東知的交流グループ研修への若手研究者の招へいなどを通じ、社会科学系の日本研究者の育成にも着手しました。